

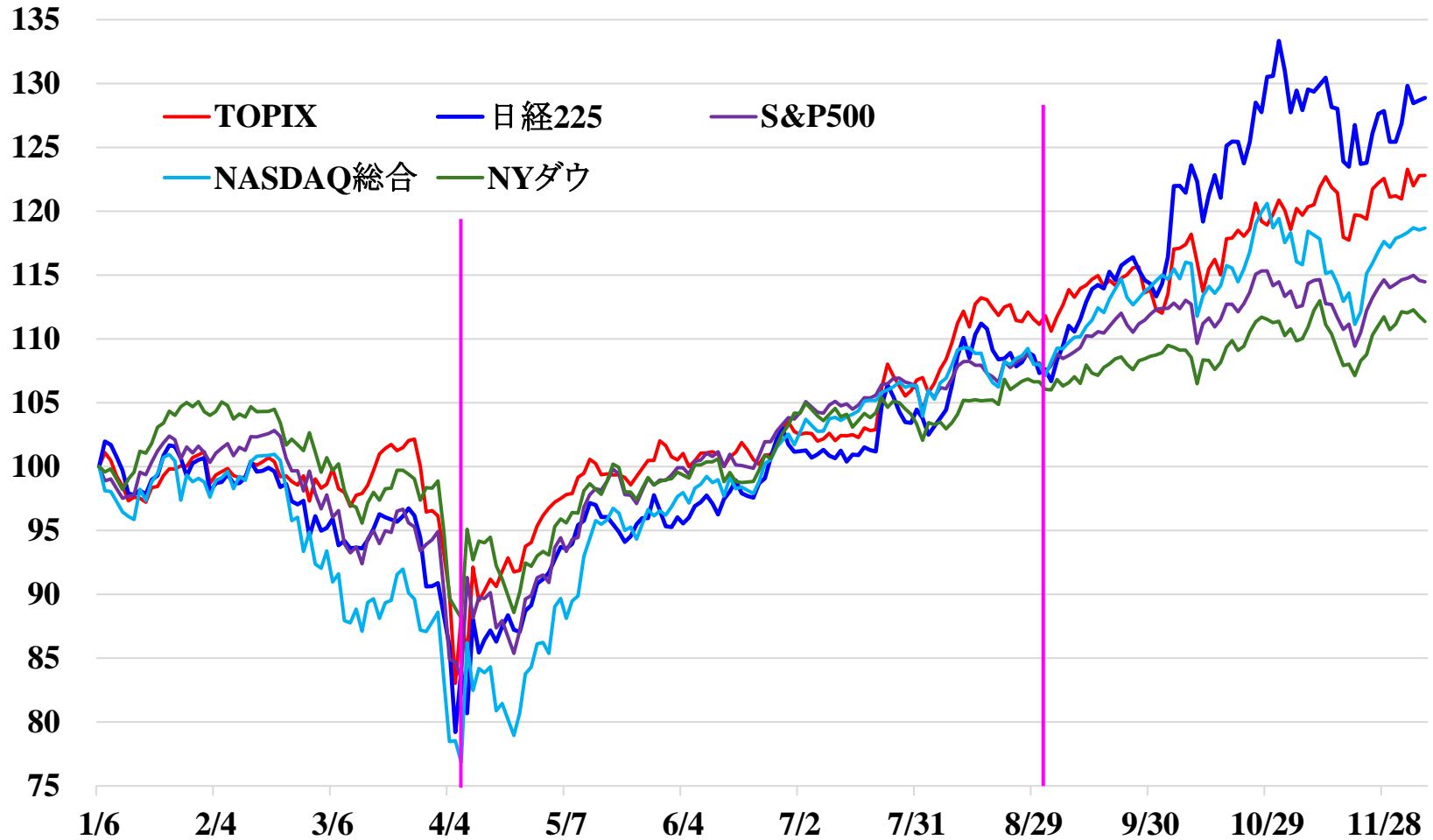


Simplex Institute

今年の総括と来年の見通し

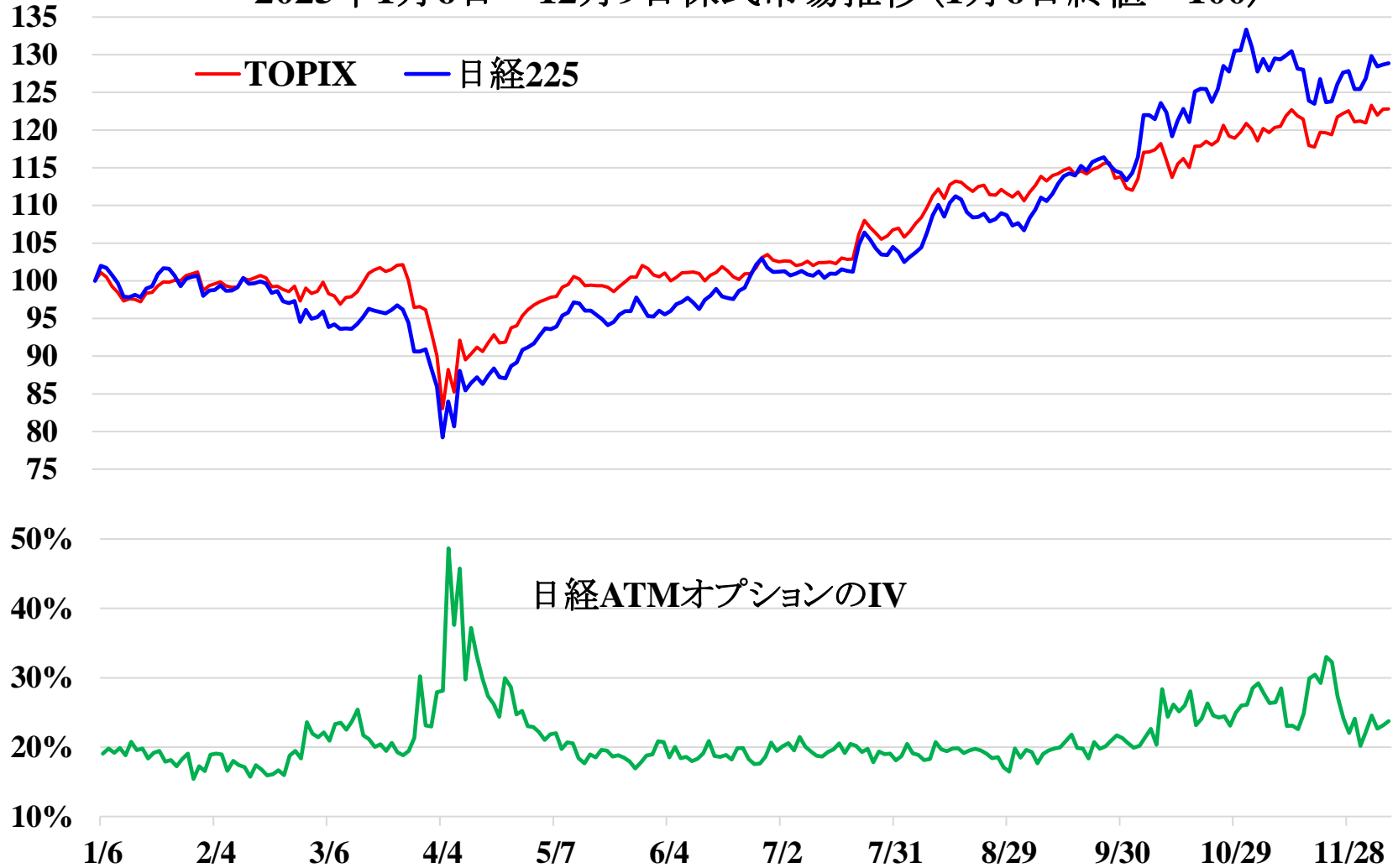
2025年の株式市場

2025年1月6日～12月9日株式市場推移 (1月6日終値 = 100)



2025年の相場の中で何ができたか？

2025年1月6日～12月9日株式市場推移 (1月6日終値 = 100)



2025年の相場の概観

1月～4月初旬:トランプ関税への不安感

相場は「弱気」, かつ, ボラティリティは「高止まり」

→「宝くじオプション」

4月中旬～8月末:トランプ関税からのアク抜けと楽観論

相場は「強気」, かつ, ボラティリティは「低位安定」

→「先物買い」, 「NT買い」

9月初旬～現在:AI相場と米景気・金利動向などからの不透明感の戦い

相場は「レンジ」, かつ, ボラティリティは「高止まり」

→「逆張りのオプション買い」, 「NT買い&売り」

1月～4月初旬:「宝くじオプション」

2025年 3月28日(金):大引け

米国の関税問題が翌週に迫り、ボラティリティが高止まりしているので最大7万円の損失を覚悟し、4月4日満期の行使価格35,500円ミニプットを70円で10枚買う(何らかのショックが起こればラッキー)

$$\text{売買代金} = 70 \times 10 \times 100 = \mathbf{70,000} \text{円}$$

2025年 4月4日(金):

4月4日満期日のSQ値は34,062.74円となり、プットは1,437.26円で決済され

$$\text{決済代金} = 1,437.26 \times 10 \times 100 = 1,437,260 \text{円}$$

$$\text{損益} = 1,437,260 - \mathbf{70,000} = \mathbf{+1,367,260} \text{円}$$

1月～4月初旬:「宝くじオプション」(続)

2025年 4月7日(月):大引け

米国の関税問題で 31,000円近くまで大きく下落した日経平均を横目に
前週の利益の一部で, 4月11日満期の行使価格 34,000円のコールを
105円で 2枚買う(反発狙いのコール買い)

$$\text{売買代金} = 105 \times 2 \times 1,000 = \mathbf{210,000} \text{円}$$

2025年 4月8日(火):大引け

前夜に発表された米関税 90日執行停止をうけ, 日経平均は 2,000円暴騰
320円になった前日のコールを利食い

$$\text{損益} = 320 \times 2 \times 1,000 - \mathbf{210,000} = \mathbf{+430,000} \text{円}$$

2回の売買で, **70,000**円 of 原資で **1,797,260**円 of 利益

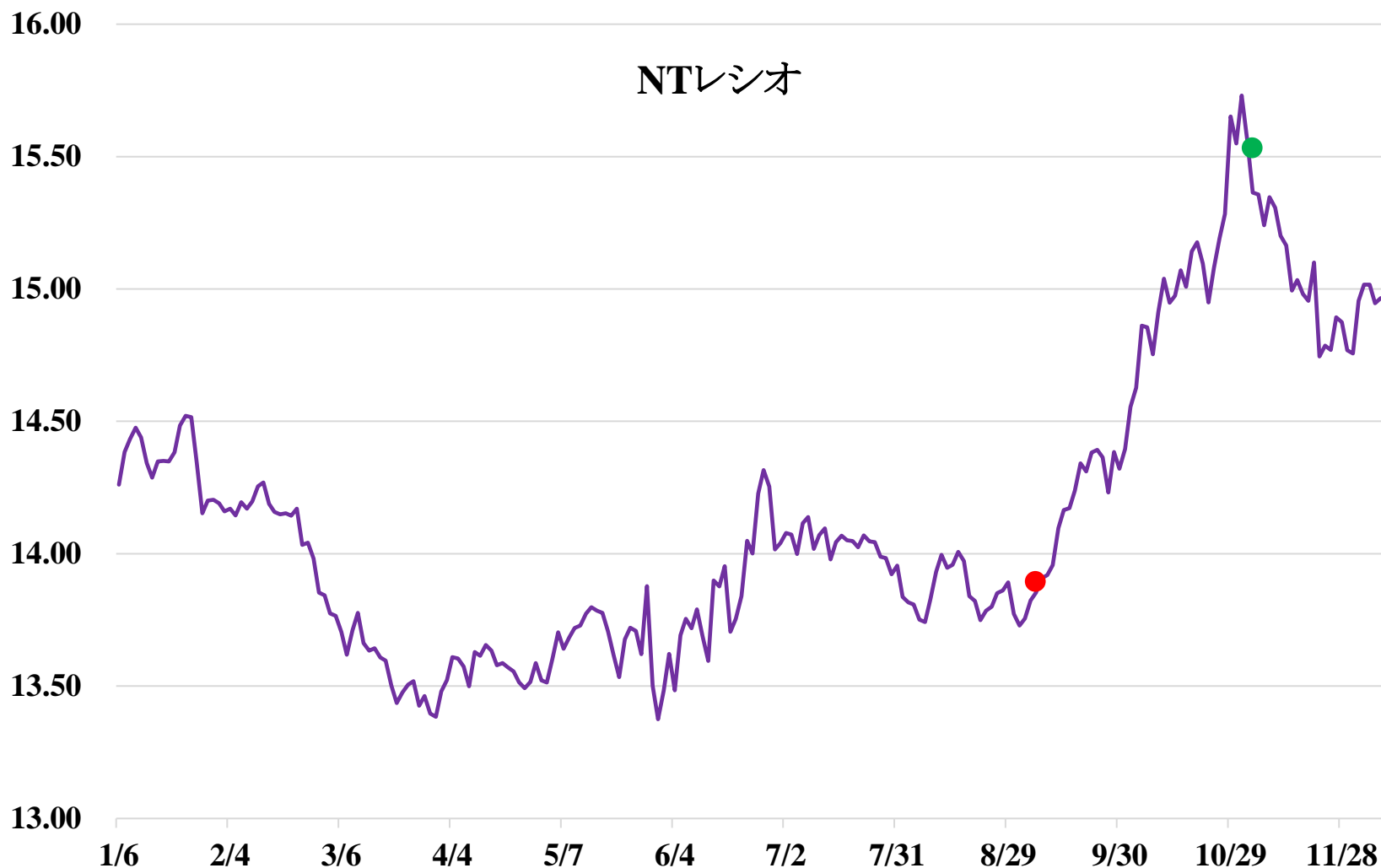
4月初旬～8月末:「先物買い」

4月初旬に日経先物を 33,000円で1枚買っていたら、8月末には30%上昇し43,000円になったので、5ヵ月間で10,000,000円の利益が出たことになる
「基本はロング」という姿勢を貫き通せば、利食えるタイミングはあったはず

同様にTOPIX先物でロングを取れば、この間に2,450ポイントから3,100に上昇(上昇率 = 26%)したので、1枚あたり6,500,000円の利益となった

このような長期間の上昇(や下落)では先物のみを使った戦略が最適
→ オプションを使うと(デルタ以外の)余分なリスクをとることになる

9月初旬～現在:「NTレシオ」



9月初旬～現在:「NTレシオ」(続)

2025年9月5日(金):大引け(NTレシオ = 13.88)

NTレシオが上昇し始めたので, NT買い(=日経買い&TOPIX売り)を組む

日経先物12月限を 42,840円で 10枚買い

TOPIX先物12月限を 3,086.5ポイントで 14枚売り

証拠金は 12,000,000円程度

2025年11月4日(火):大引け(NTレシオ = 15.56)

NTレシオが下落し始めたので, NT買いを解消

日経先物12月限を 51,510円で 10枚売り

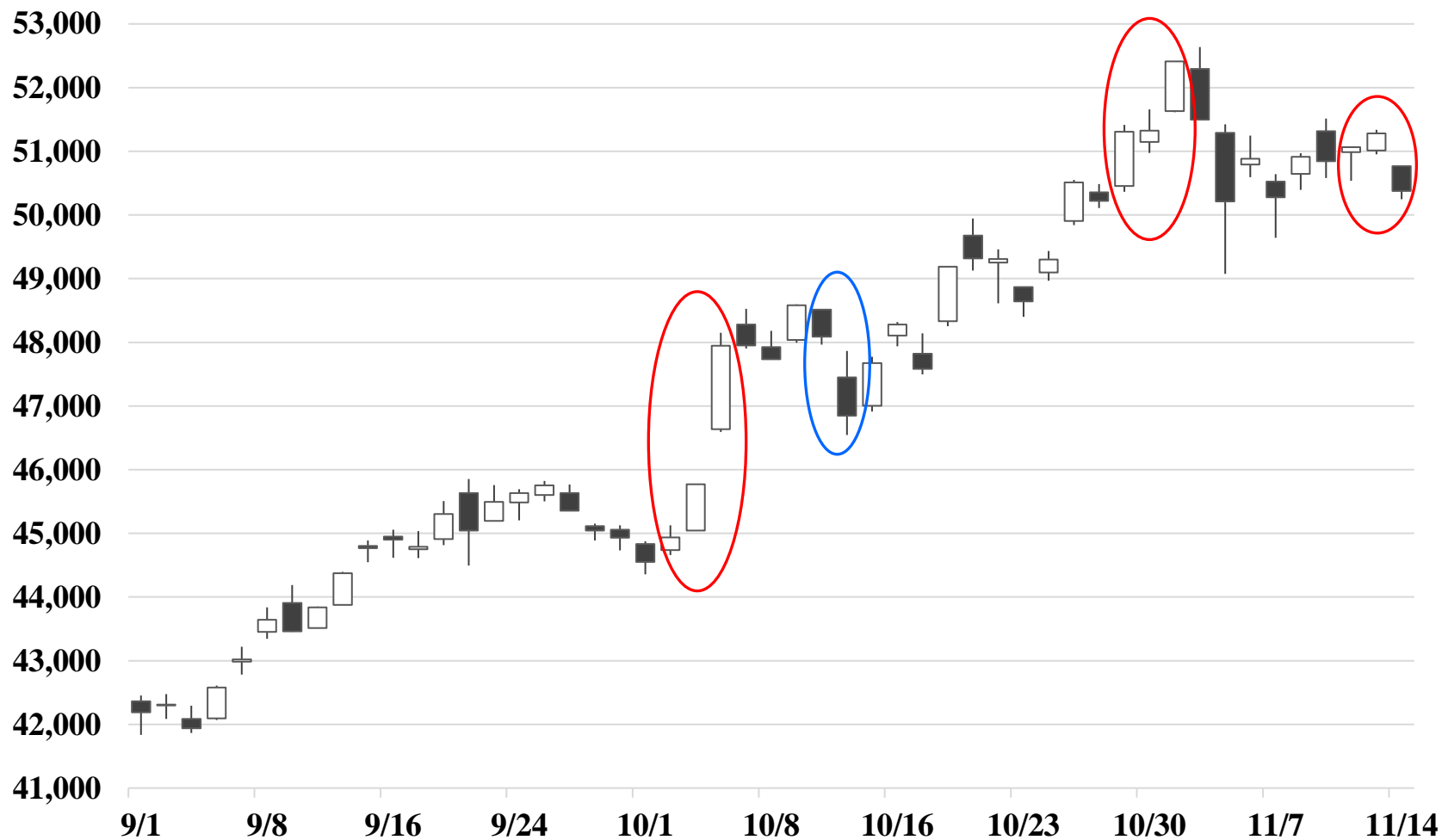
TOPIX先物12月限を 3,310.0ポイントで 14枚買い

$$\begin{aligned} \text{損益} &= (51,510 - 42,840) \times 10 \times 1,000 + (3,086.5 - 3,310.0) \times 14 \times 10,000 \\ &= 86,700,000 - 31,290,000 = 55,410,000 \text{円} \end{aligned}$$

少ない証拠金で市場の下落に対処しながらの利益としては立派

日経平均の推移: 10月以降に注意

2025年9月1日～11月14日: 日経平均日足



9月初旬～現在:逆張りオプション買い

- (1) 2日間相場が下落したら3日目に逆張りで OTMコールを買う
このとき, 行使価格は 2,000～4,000円上を選ぶ
その後, 買い値段の 2倍で売指値して放置
- (2) 2日間相場が上昇したら3日目に逆張りで OTMプットを買う
このとき, 行使価格は 2,000～4,000円下を選ぶ
その後, 買い値段の 2倍で売指値して放置

これらの取引のポイントは

「25%を超える IVが続くと, 2倍の価格で利食える可能性は高い」(経験則)
「ボラティリティは急速には下がらないので, IVが高くても怖がらずに買う」
という点にある

9月初旬～現在：逆張りオプション買い(続)

1. 10月7日：先物が48,000円近辺のとき、10月3週限行使価格46,000円のプットを170円で買う → 10月13日(祝日取引)：340円で同プットが売れる
2. 10月15日：先物が47,700円近辺のとき、10月4週限行使価格50,000円のコールを120円で買う → 10月20日：240円で同コールが売れる
3. 10月31日：先物が52,400円近辺のとき、11月2週限行使価格48,500円のプットを215円で買う → 11月5日：430円で同プットが売れる
4. 11月14日：先物が50,400円近辺のとき、11月3週限行使価格48,500円のプットを69円で買う → 11月14日(夜間取引)：140円で同プットが売れる

注) 価格(出費)を抑えるために満期日の近いミニオプションを使っている

2026年相場のトピック

1. 金利:どこまで上昇するか？
2. インフレ:終息？拡大？
3. 米国景気:失業率と個人消費はどうなる？
4. AI相場:いつまで？

講師プロフィール

伊藤祐輔(いとうゆうすけ)

株式会社シンプレクス・インスティテュート 代表取締役

1976年早稲田大学理工学部数学科卒業, 1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了. 偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け, 1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券(現シティグループ証券)に入社. 株式部長, 株式デリバティブトレーダーとして約11年間マーケットにかかわる. 1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券(現クレディ・アグリコル証券)に移りトレーディングデスクの再構築を行い, 2000年(株)シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任.

免責事項

当資料の内容は, 投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり, 投資の勧誘を目的としたものではありません.

投資に関する最終的な決定は, ご自身の判断と責任においてなさるようお願い致します. 株式会社シンプレクス・インスティテュートでは, 当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても, 一切の責任を負うものではありません.

無断転載を禁ず

当資料の全部, または一部を無断で複写・複製・転載, および磁気・高記録媒体に入力することなどは, 著作権法上の例外を除き禁じられています.

株式会社シンプレクス・インスティテュート

〒105-6223 東京都港区愛宕 2-5-1

愛宕グリーンヒルズMORIタワー23階

URL: <http://www.simplexinst.com>

E-mail: info@simplexinst.com

参加者アンケート



※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ご注意事項

- 本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。
- 必要証拠金額は当社証拠金(発注済の注文等を加味した証拠金×100%)－ネット・オプション価値(Net Option Value)の総額となります。
- 当社証拠金、およびネット・オプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定ごとに再計算されます。
- 証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。
- 「HYPER先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクロージング開始時点の証拠金維持率(お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×100%で計算)が100%を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「HYPER先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×50%～90%の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。
- 先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構のWEBサイトをご覧ください。
- 指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。
- 日経平均VI先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均VI先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ(20~30程度)に回帰するという特徴を持っています。
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うこととなります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご注意ください。

金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)、店頭CFD取引(SBI CFD)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

金融商品取引法等に係る表示

https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html

商号等:株式会社SBI証券 (金融商品取引業者、商品先物取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人日本暗号資産等取引業協会